



# やまなし

第89号 2015年7月29日(年3回発行)

## もくじ

- 1p H27年度生活行為向上マネジメント推進委員会の取り組み
- 3p 山梨県作業療法士会倫理委員会 連載コラム第3回
- 4p 施設紹介
- 5p 理事会だより
- 7p 各種申請書変更のお知らせ・広告・編集後記

## 「H27年度生活行為向上マネジメント推進委員会の取り組み」

生活行為向上マネジメント推進委員会  
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 米山 敦

日本作業療法士協会は、2008年度厚生労働省・老人保健健康増進等事業を受け、「国民に分かりやすい作業療法」の形を示すべく、「作業療法の30cmのものさし 生活行為向上マネジメント」を研究開発した。それから7年、協会の積極的な推進・啓発活動により着々と作業療法士に広まり、関連職種にまでも徐々に知れ渡ってきた。

山梨県作業療法士会は、2014年度に生活行為向上マネジメント推進委員会を設立し、佐藤真一推進委員、古屋豊美委員長を中心として山梨県士会員への推進に取り組んでいる。2014年度までに各都道府県士会で生活行為向上マネジメント関連の研修会が開催されているが、山梨県士会員の受講率は、全国上位に位置している。当委員会としては、県士会員の興味・関心が高い実情には誠に感謝しており、今年度も更なる推進活動に取り組むことの責務を感じている。

そして、2015年度の介護報酬改定。

今回の改定では、「心身機能」に偏らず、「活動」と「参加」に焦点を当てたバランスのとれたリハビリテーションの展開が求められることとなった。新たに「生活行為向上リハビリテーション実施加算」が制定され、その算定要件の一つに、「生活行為の内容の充実を図るための専門的な知識や経験を有する作業療法士」と明記された。この「専門的な知識や技術」とは、「日本作業療法士協会が実施する生活行為向上マネジメント研修を受講した際に得られる知識や経験が該当する」と厚生労働省は発出し、日本作業療法士協会は、算定要件を満たすための具体的履修条件を基礎研修：420分、実践者研修：1620分と事例発表又は事例報告とした。詳細については、当委員会が各施設へお送りした「生活行為向上リハビリテーション実施加算算定要件に該当する会員及び当士会の対応について(ご連絡)」をご覧ください。

山梨県の現状(2015年4月22日現在)は、基礎研修修了者80名、実践者研修修了者1名となっている。2014年度までに多くの県士会員に生活行為向上マネジメント関連の研修を受講して頂いたが、それまでの研修は、時間が推奨であったため日本作業療法士協会より出された規定時

間に満たない会員が多く存在する。1人でも多くの研修修了者を輩出するため、今後計画している取り組みについて記載する。

7月2日(木)第1回研修会(基礎研修 120分 概論:90分、事例方向に向けて:30分)開催予定。

7月22日(水)第2回研修会(補充研修 2014年度までに研修を受講したが、わずかに時間が満たない方が対象)開催予定。

10月25日(日)第3回研修会(基礎研修 300分 演習:300分)開催予定。

12月13日(日)第4回研修会(実践者研修 事例発表会)開催予定。案内を準備中。応募多数の際は平日の夜にも開催を検討している。

ぜひ、新入者または、いまだこのツールを体験していない方は、今年度計画している研修会にご参加頂きたい。すでに研修を受講した方は、「実践する」ことを目標に取り組みをお願いしたい。その実践によって多くの対象者に作業療法を還元し、山梨県での成果を事例発表会に出して頂きたい。また、発表をする・しないに関わらず、多くの県士会員に事例発表会へ参加して頂き、作業療法が適切に対象者に提供できているか、このツールを使用しての成功や失敗したことなどについて情報共有、意見交換をして、様々な事例からマネジメント技術を学んで頂きたい。事例発表会に参加できない方は、生活行為向上マネジメントを使用した事例報告の登録があるので、詳細については協会ホームページをご参照頂きたい。

最後に、あくまでも介護報酬での加算を取るために生活行為向上マネジメントがあるのではなく、作業療法を適切に対象者へ提供するための一つの道具であること、また専門職としての質を高めていくためにあることを忘れないでほしい。

今後も当委員会は、協会との連携を図り、研修会開催や士会員への情報提供をしていきたいと考える。



## 広報局からのお知らせ

作業療法士の仕事を一般の皆様にも知ってもらうためにリーフレットを作成しました。地域活動等の際にはぜひご活用下さい。

### お問合せ

一般社団法人山梨県作業療法士会  
広報局 ホームページ管理部  
山梨厚生病院 精神科デイケア室 桑原 宏和  
TEL:0553-23-1311(代) FAX:0553-23-5563  
Mail:psdaycare@kosei.jp



## あなたはどう感じますか？！

### ～公正（正義）と倫理的ディレンマ～

『サクラちゃんは生まれつき障害があります。小学校に入学するまでは自宅から通園施設に通ってました。小学校は、障害児のために準備された学校に通学し寮で生活をしていました。中学に進学する際、サクラちゃんと家族は、自宅近くの中学校へ通えるよう交渉をしました。地域の人たちの応援もあり、サクラちゃんは自宅から中学校へ通えるようになりました。クラスメートもいろいろ協力しました。しかし、中学3年生になると、クラスメートのほとんどは受験で忙しいからという理由でサクラちゃんの手伝いをするのを避けるようになりました。同じ人ばかりに手伝ってもらうことに対して、サクラちゃんは申し訳なく感じています。』<sup>1)</sup>

小学校は障害児のために準備された学校・寮で生活する手段しかなかったのだろうか？

サクラちゃん個人はどう感じているのだろうか？

中学校のクラスメートは手伝うことをどう感じたのだろうか？

「公正（正義）」とは年齢、性別、人種、財産、社会的地位などで人を差別せず、平等、公平を実現することをいいます。障害児は障害児のための学校へ行くことは決められていることでしょうか。サクラちゃんにも他の子供と同様（平等）に普通教育を受ける権利があります。普通の小学校へ通うという選択を本人と決めても良かったのではないのでしょうか。

中学校ではどうでしょう。クラスメートが進んで手伝いを行っており、これを負担に思っていないならば、サクラちゃんが申し訳なく感じる必要はありません。しかしサクラちゃんの手伝いを負担に感じ、自分ばかりが負担を負っているのは不公平だと思っているならば、問題です。みんなで話し合っってよりよい解決案を考える必要があります。

上記のように、一方にとって公平であっても、他からみると不公平に感じることはありませんか。行動の選択肢がいくつかあるけれども、そのどれをとっても完全に良いとはいえないような難しい状況を、「倫理的ディレンマ」と呼びます。「倫理的ディレンマ」においても可能性のある選択肢の中で、お互いに納得のいく決断をするためにさまざまな角度から検討することが重要です。そのためには一人であっさり決めてしまわずに、異なる意見を持つ人々と心を開いて話し合うことが必要です。考えられる限り広範囲に考え、それぞれの選択肢の長所・短所を知ったうえで、結果を予測して最良の決断をすることが望まれます。<sup>2)</sup>

複雑な問題には、唯一の正しい答えはありません。それでも自分の立場での考えを示して、具体的に行動していく必要があります。そのためには、気になったことは、なぜそれが気になったのか振り返って考える習慣をつけ、皆さんの倫理的な感受性を高めておくことをお勧めします。

倫理委員会では、毎年、倫理的な感受性を高めることを目的としたワークショップを開催しています。私達が日頃遭遇するケースを通して、倫理的ディレンマにどのように対応するのか参加者でディスカッションを行います。皆様のご参加お待ちしております。

【引用文献】1)2) 吉川ひろみ：保健・医療職のための生命倫理ワークブック,三輪書店,2008年,V

# ひと花新聞 号外

1977

発行 青物社

〒400-0005  
山梨県甲府市  
中央2-2-1011

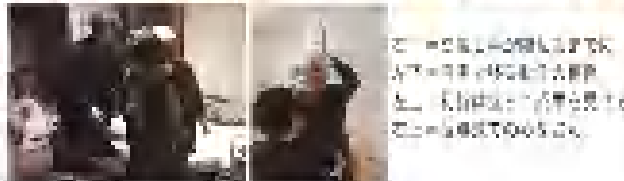
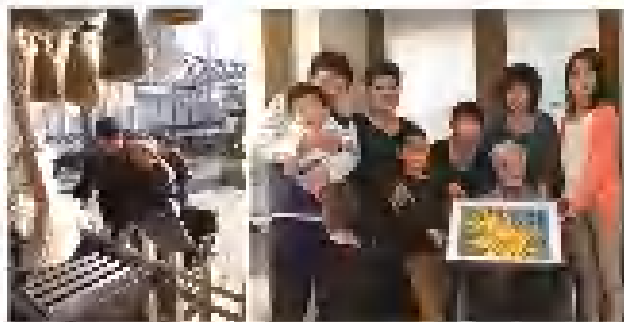
026-262-0140

## 作業療法士の挑戦が始まる

### 高齢社会を面白くする 新新社の紹介

#### 活動と参加」のリアル・リレーショーの実際

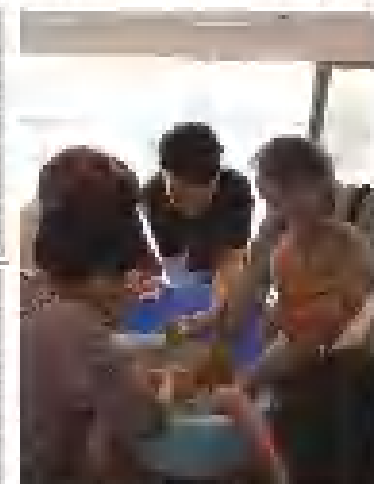
「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際。2015年1月、2月、3月の3回、山梨県内の各施設で「活動と参加」のリアル・リレーショーが行われ、多くの参加者から好評を博した。今回は、その中でも、山梨県内の各施設で行われた「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際について、山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。



#### リアル・リレーショーの実際

「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際。山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。今回は、その中でも、山梨県内の各施設で行われた「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際について、山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。

「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際。山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。今回は、その中でも、山梨県内の各施設で行われた「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際について、山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。



山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏

#### 可能性、無限

「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際。山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。今回は、その中でも、山梨県内の各施設で行われた「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際について、山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。

#### やるなら、今

「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際。山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。今回は、その中でも、山梨県内の各施設で行われた「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際について、山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。



山田 孝一氏

「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際。山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。今回は、その中でも、山梨県内の各施設で行われた「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際について、山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。



山田 孝一氏

「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際。山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。今回は、その中でも、山梨県内の各施設で行われた「活動と参加」のリアル・リレーショーの実際について、山梨県作業療法士会副会長の山田 孝一氏にインタビューを行った。

## 理事会便り

日 時：平成 27 年 1 月 27 日(火)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、有泉、  
関谷、磯野、佐尾、濱田、米山、  
渡辺、宮尾、長坂：13 名

### 1. 事務局(三瀬)

- 1)甲府市自立支援給付認定審査委員として、廣田真由美副会長、久保田正好(株式会社斬新社)を推薦

<管理部>

- 1)会員数 507 名(平成 27 年 1 月 27 日現在)
- 2)ノートパソコンを 1 台購入し、所有していない各部・委員会へ貸出運用する

<福利厚生部>

- 1)平成 26 年度新年会  
日 時：平成 27 年 1 月 21 日(水)  
会 場：プライダルヴィレツジミラベル  
参加者：122 名

### 2. 社会局(濱田・渡辺)

- 1)渡辺直美理事が産前産後休業の為、事業部を濱田一登志理事が代行する

### 3. 学術局(佐尾・宮尾・有泉)

<学術大会運営部>

- 1)第 7 回山梨県作業療法学術大会の大会長は佐藤真一監事に決定し、部員は 46 名を選出した

### 4. 常設委員会(関谷・松田・米山)

<福祉用具委員会>

- 1)福祉用具支援～移乗・実践編～  
日 時：平成 27 年 1 月 14 日(水)  
会 場：山梨県立大学池田キャンパス  
参加者：32 名

<特別支援教育委員会>

- 1)地域とつながってこころグループ  
テーマ：ふれあい繋がり遊ぼう会  
日 時：平成 27 年 1 月 11 日(日)  
会 場：健康の杜センターアネシス  
参加者：36 名(小児 10 名)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

### 1)第 2 回研修会

日 時：平成 27 年 1 月 25 日(日)

会 場：大木記念ホール

講 師：高橋啓吾

(リハビリテーション天草病院)

参加者：70 名

## 一般社団法人 山梨県作業療法士会

### 2014 年度 第 11 回 理事会議事録

日 時：平成 27 年 2 月 25 日(火)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、三瀬、有泉、関谷、  
松田、磯野、佐尾、濱田、米山、  
長坂：11 名

### 1. 副会長(廣田)

- 1)平成 27 年 2 月 9 日(月)三士会合同意見交換会に廣田副会長・古屋副会長出席
- 2)平成 27 年 2 月 15 日(日)47 委員会キックオフミーティングに古屋副会長出席

### 2. 事務局(三瀬)

<管理部>

- 1)会員数 538 名(平成 27 年 2 月 25 日現在)
- 2)通信費について、信書は現行通り郵便にて発送し、信書以外の発送物に関しては経費削減の為に発送方法を検討する

### 3. 学術局(佐尾・有泉)

<企画研修部>

### 1)第 5 回研修会

テーマ：ターミナルケアに対する作業療法～基本的な考え方と臨床に役立つアプローチ～

日 時：平成 27 年 2 月 22 日(日)

会 場：大木記念ホール

講 師：田尻寿子

(静岡県県立静岡がんセンター)

参加者：80 名

<生涯教育部>

1)2014 年度現職者選択研修

テーマ：高齢期領域の作業療法

日時：平成 27 年 2 月 8 日(日)

会場：クワハウス石和

参加者：40 名

4 . 常設委員会(関谷・松田・米山)

<倫理委員会>

1)臨床倫理に関するワークショップ

テーマ：本当にいいことなのかもう一度

考えてみよう～回復困難な脳腫

瘍患者への関わり～

日時：平成 27 年 2 月 19 日(木)

会場：山梨県立図書館

参加者：12 名

5 . 特設委員会(磯野)

<地域支援事業等推進委員会>

1)リハ専門職の市町村事業関与促進に向

けた合同研修会 in 山梨

主催：一般社団法人日本リハビリテー

ション病院・施設協議会/三士会

地域支援事業等推進委員会

日時：平成 27 年 2 月 11 日(水)

会場：ホテル春日居

参加者：160 名

一般社団法人 山梨県作業療法士会

2014 年度 第 12 回 理事会議事録

日時：平成 27 年 3 月 30 日(月)

会場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、有泉、関谷、磯野、

佐尾、濱田、米山、長坂：11 名

1 . 会長(山本)

1)平成 27 年 3 月 6 日(金) 健康科学大学

卒業式に山本会長出席

2 . 副会長(廣田・古屋)

1)都道府県作業療法士会連絡協議会に廣田副会長

出席

2)富士・東部小児リハビリテーション診療

所開設式に古屋副会長出席

3 . 事務局(三瀬)

1)日本作業療法士協会へ平成 27-28 年度

生活行為向上マネジメント推進委員推

薦者として佐藤真一監事を選出

<管理部>

1)会員数 512 名(平成 27 年 3 月 30 日

現在)

4 . 広報局(米山)

<企画編集部>

1)平成 27 年 3 月 11 日(水)に第 88 号広

報ニュースを発送

5 . 臨時委員会(磯野)

<災害対策準備委員会>

1)平成 27 年 3 月 9 日(月)大規模災害リハ

ビリテーション支援関連団体協議会会

議に磯野理事出席

一般社団法人 山梨県作業療法士会

2015 年度 第 1 回 理事会議事録

日時：平成 27 年 5 月 1 日(金)

会場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、有泉、関谷、

宮尾、松田、磯野、米山：11 名

1 . 会長(山本)

1)平成 27 年 4 月 5 日(日) 健康科学大学

入学式に山本会長出席

2 . 副会長：(廣田・古屋)

1)47 都道府県委員会に古屋副会長出席

3 . 事務局(三瀬)

<管理部>

1)会員数 510 名(平成 27 年 5 月 1 日現在)

4 . 広報局(三瀬)

<HP 管理部>

1)県士会のリーフレット 2500 部が完成

5 . 常設委員会(松田、関谷、米山)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1)生活行為向上マネジメントのぼり旗が

完成

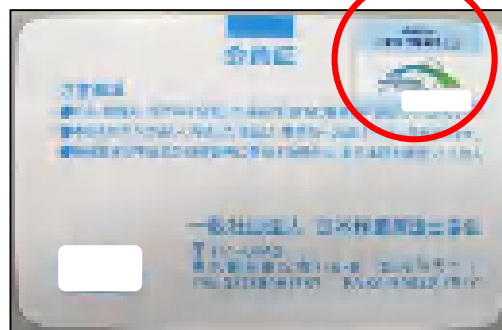
2)生活行為リハビリテーション要件につ

いて、基礎研修修了者は県内 80 名

## 一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付（下記参照）し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。

なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。



### 一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

#### 入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功勞のあったもの又は学識経験者

**いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。**

#### 会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きますようお願いいたします。

#### 連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部  
〒400-0831 山梨県甲府市上町753-1  
甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内  
FAX：055-241-8660（代）  
TEL：055-241-5811（代）



## 編集後記

あれから70年。今、ちょっと考えてしまいます。(ふ)

運動不足です。筋力が不足しています。これからは根気との戦いです。(つ)

子どもの成長の早さに驚き、自分の運動能力の低下に仰天する。そんなこの頃です。(今)

スマホにパソコン、アプリにガジェット、楽しく使って楽に仕事したいですね!(な)

今年から企画編集部です。よろしくお願いします!(稲)

最近になって家事が楽しくなってきました!(浅)

もう今年が残り半分なので、悔いの残らない人生を送ります。(梶)

今年度から広報誌のページ数が減っています。...が、その分、より内容を充実させて、面白くて

かつ、皆さんの役に立つ情報を載せていければと思います。(い)

発行人：山本 伸一

編集人：米山 敦・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・梶原 由加里・土屋 唯・浅川 良太・今泉 隼・精進 智規・金田 勇一・稲葉 峻太

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

しらゆり訪問看護ステーション 〒400-0114 山梨県甲斐市万才287 TEL 055-276-1155

FAX 055-279-1262

印刷所：(株)島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居1534 TEL 055-233-8829